熊本大学広報誌

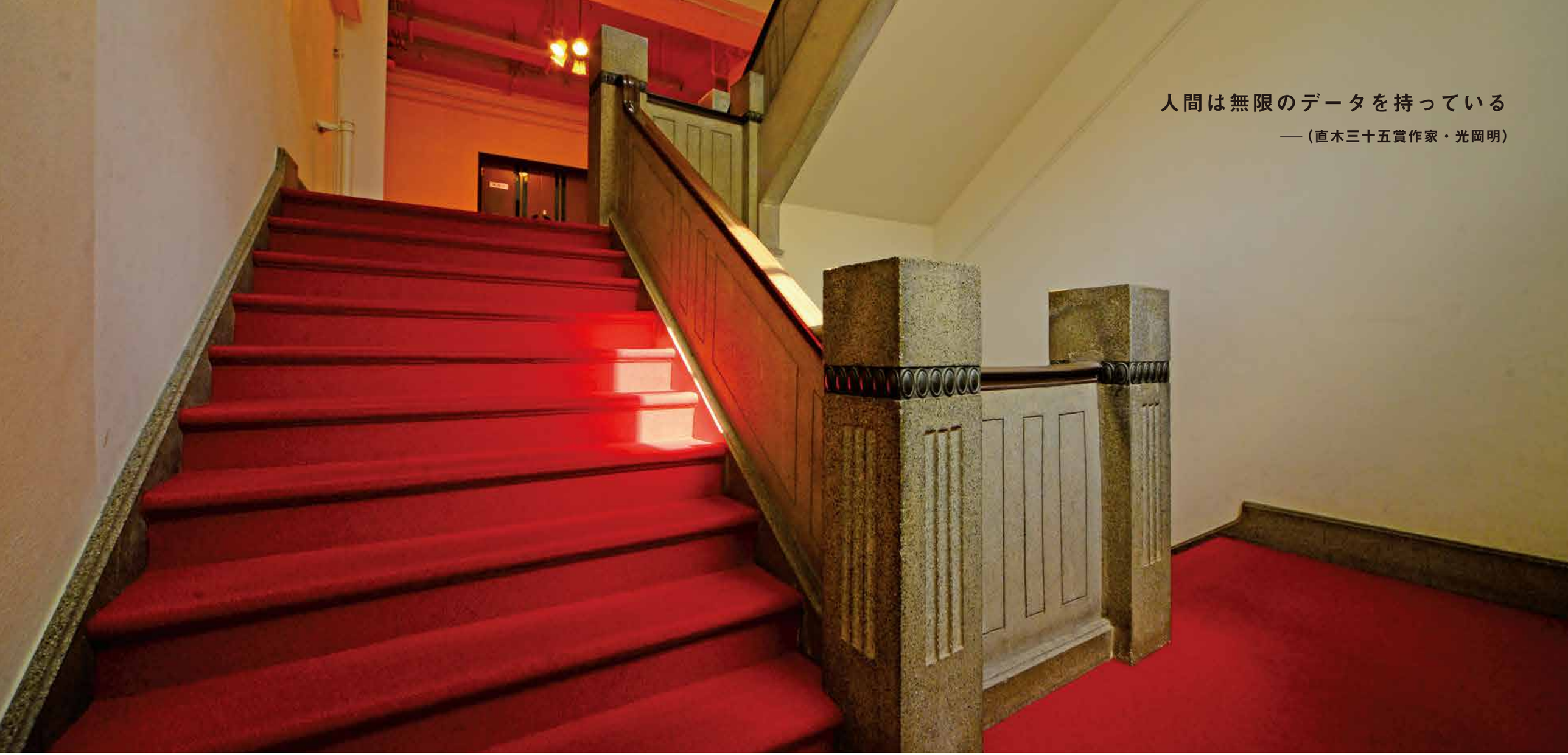
熊大通信

vol. 71
2019 WINTER

特集Ⅰ
世界と共に。
世界とつながる、熊大の共同研究

特集Ⅱ
附属だからこそ、できる！
附属学校の教育研究

学生企画
知ってる？
熊大のこんなサークル



人間は無限のデータを持っている

――（直木三十五賞作家・光岡明）

熊大で生きる君たちへ

熊本大学本部棟（旧熊本高等工業学校本館）

熊本大学の本部棟は、木造建築の校舎が焼失した後、旧熊本高等工業学校の本館として大正13（1924）年に竣工した。文部省直轄学校の鉄筋コンクリート造校舎としては初期のものとなり、柱型とセセッション風の柱頭飾りなどの技巧が凝らされている。平成10年9月には登録有形文化財となった。

言葉は、熊本大学法文学部卒で、直木賞作家の光岡明（昭和7年11月3日～平成16年12月22日）のもの*。初代熊本近代文学館長などの公職に多くつき、県内の各地を回りながら、多くの人の話を聞くことで作品を書いた光岡氏の思いが込められている。

※『恋い明恵』（文藝春秋）巻末に寄せられた井上智重氏（前くまもと文学・歴史館長、熊本大学法文学部卒）の文章中にある、光岡氏エッセイの引用より

CONTENTS

03 特集Ⅰ　世界と共に。
世界とつながる、熊大の共同研究

11 研究室探訪　言葉の持つ絶大な影響力が見えた時、自己探求への道も深まる学問・レトリック
文学部
平野　順也　准教授

13 特集Ⅱ　附属だからこそ、できる！
附属学校の教育研究

15 学生企画　知ってる？熊大のこんなサークル

17 卒業生ジャーナル

19 KUMADAI TOPICS

22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 ／【原画】松永 拓己 / 大学院教育学研究科 准教授
熊本大学本部棟

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.71
＊皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

［発　行］国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119　Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

［編　集］熊大通信編集委員会
大日方信春／委員長　大学院人文社会科学研究部（法学系）
茂木　俊伸／大学院人文社会科学研究部（文学系）
松永　拓己／大学院教育学研究科
河野憲一郎／大学院人文社会科学研究部（法学系）
木村　弘信／大学院先端科学研究部（理学系）
川島扶美子／大学院先端科学研究部（工学系）
永田まなみ／大学院生命科学研究部（保健学系）
首藤　　剛／大学院生命科学研究部（薬学系）
後藤　正三／総務部総務課広報戦略室

［制　作］株式会社 談

特集Ⅰ

世界と共に。

世界とつながる、熊大の共同研究

熊本大学では、世界のさまざまな大学、研究機関と共同・連携し、先進的な研究をすすめています。2018年現在、熊本大学の研究室等と共同研究を行っている国は87カ国／地域、1,990機関。その成果は世界に向けて発表され、新たな発見や技術の進歩に貢献しています。

海外の研究機関との共同研究では、世界で先進的な研究を行う研究者と直接議論することで、異なる考え方や研究手法を知ることができます。世界の研究者の多様な視点が加わることで研究が深まるだけでなく、グローバルな問題を解決できうる成果にもつながっています。

今号では、多くの共同研究の中から、特徴的な研究や、長期間継続している研究をとりあげました。共同研究により、世界に広がる熊大の研究者をご紹介します。

最新の共同研究リスト

熊本大学 海外共同研究

世界と共に。

吉武研究室×ギリシャ・メッセネ考古学協会／ペラ考古局

ペラ王宮遺跡の調査風景

メッセネ古代遺跡調査のスケッチ

熊本大学の西洋建築史研究は、昭和40年代に日本初の環地中海遺跡調査隊を組織し現地へ派遣するなど、長い歴史を誇ります。熊大生の頃から現地調査・研究に携わり、現在も、ギリシアなどの考古学者らと共同研究を進めているのが吉武隆一准教授です。

建築学と古典考古学が手を組み
古代文明を紐解く共同研究が建築への理解を深化する

自分の目で見て触れる共同研究の醍醐味

吉武研究室の共同研究のひとつが、クレタ大学（ギリシャ）のテメリス教授が主催するメッセネ考古学協会とともに行っている、メッセネの古代劇場の調査。直径100mを超える大建築の調査では、2012年にフィールド調査が終了し、現在は報告書をまとめています。また近年始まったのが、ペラ考古局（ギリシャ）とともに行っている、アレクサンダー大王の生まれ故郷であるペラの王宮遺跡調査研究。吉武准教授は学生らを率い、毎夏現地へ赴いています。「実際に現地で建造物を見ると、手作業で巨大建築を造った人たちのことがリアルに伝わってきます。2千年以上も残るということは、それだけいい建物だということ。人々が集まる劇場や神殿などを立派に造り、自分たちがいなくなった後も残ることを本気で考えた古代人のすごさは、現地に行ってこそ感じられます」。

古代遺跡の場合、発掘許可を得られるのは考古学者ですが、調査には測量や計測という建築にかかわる知識や技術が不可欠。「そこで学生を連れた調査隊を組織できる私たちのような存在が必要です。私たちも、参加することで勉強させてもらえます」。現地で直接、建造物や発掘される一次資料に触れることは、建築を理解する上で不可欠だと話します。

古代建築への理解から現代と未来の文明を考える

ヨーロッパの研究者との連携は、幅広い視点で自分の研究を見つめなおすことができることも利点だと吉武准教授。「もともと、ヨーロッパにおける古代建築の研究は、古典考古学と建築研究の双方から行われてきました。2年間在籍したドイツのフライブルグ大学では、建築を古代文明の一部として学び、古代建築に古代人の何が表現されているのか、それが現代文明にどんな意味があるのかを議論していました」。建築学と考古学がともに戦略的に古代建築を研究し、長い時間をかけて全体理解を進める。そして、よりよい文明の創造を目指す。そんな考え方があることがヨーロッパと日本との違いだと話します。

「古いものを真似るだけでは、新しいものはつくれない。どうすれば魅力的な建物を造ることができるのか、単に形などの話だけでは説明できません」と吉武准教授。「学問に理系文系の垣根はなく、また、古代ローマの時代から建築は総合の学問と言われます。総合大学という熊本大学の利点を活かし、今後も幅広い研究を進めていきたいと思います」。

メッセネ考古学協会のメンバーと

メッセネの古代劇場遺跡の調査風景

ペラ王宮遺跡の調査メンバー

大学院先導機構 西洋建築史
吉武 隆一（よしたけ りゅういち） 准教授

熊本大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。2009年より熊本大学大学院先導機構に着任。2014年より大学院先端科学研究部（工学系）を併任。専門は、西洋建築史。

連川研究室×ドイツ・アーヘン工科大学／チェコ・チェコ科学アカデミー物理研究所／アメリカ・フロリダ大学

研究結果について議論する連川教授とチェコ科学アカデミーのレイチェック教授

小さな結晶粒で文字を表した鉄・シリコン合金板

結晶粒と結晶粒が結びついた境目である「結晶粒界」の構造と特性を明らかにする研究は、次世代を担う新しい材料が生まれる可能性を秘めた工学研究です。この分野で、20年も前からヨーロッパの著名な博士らと研究を続けているのが連川貞弘教授です。

結晶粒界の構造と特性を見る
粒界工学をテーマに続く20年来の共同研究

結晶粒界の特性が秘める より良い材料への可能性

連川貞弘教授の研究テーマのひとつが「結晶粒界」です。結晶粒界とは、単結晶が結びついた多結晶体における、それぞれの結晶粒（領域）の境目を指す言葉。「各結晶粒の中では、原子が規則的に配列した単位胞とよばれる構造が周期的に並んでいますが、結晶粒によってその並び方は違います。それらが結びついた多結晶体にできる境目、すなわち結晶粒界では、原子が違う配列になる。つまり、その材料が持つ本来の構造とは違う構造が、結晶粒界にできあがっていることになります」と連川教授。境目にできる構造は、結晶粒のぶつかり方によっても変化すると言います。「原子的構造が変われば、結晶粒内とは違う性質が出てくる可能性が生まれます。私たちは、どのような結晶粒界がどのような構造を持っているのかを研究しています」。

結晶粒界は、そこから割れたり、腐食という化学的劣化が浸透するため、以前は材料を劣化させる悪者として、どう制御するかが主に研究されていました。しかし、結晶粒界の構造と関連づけて、その特性を理解することで、これまでにない新しい材料をつくることができると連川教授。「良い結晶粒界をどんどんつくりこんでいくことで、よりすぐれた材料になる、そんな可能性につながる研究が粒界工学研究です」。

著名な博士らとの交流が 学生にも大きな刺激に

粒界工学をテーマに、現在連川教授が共同研究を行っているのが、チェコ科学アカデミー物理研究所、ドイツのアーヘン工科大学、そしてアメリカのフロリダ大学の著名な博士たち。特に、チェコのレイチェック教授とドイツのモロドフ教授とは、すでに20年間、研究交流を重ねています。「レイチェック教授とたまたま同じ材料を使い同じテーマの研究をしていたことから、1998年に共著論文を出したことが始まりです」と連川教授。

国際先端科学技術研究機構の客員教授でもあるレイチェック教授は来熊の機会も多く、「学生たちが、この分野で非常に著名な先生方に、直接会うことができるし、共同研究先には大学院生のインターンシップも受け入れてもらっており、学生にとって本当にいい刺激になっています」。また、「共同研究で世界のトップを走る研究者から違う視点の意見を得ることで、研究がより進展します」。今後は、基礎研究である粒界工学の分野を応用展開し、地球環境やエネルギー問題の解決に貢献したいと話してくれました。

研究に欠かせない走査型電子顕微鏡

結晶粒界の様子を顕微鏡で観察する

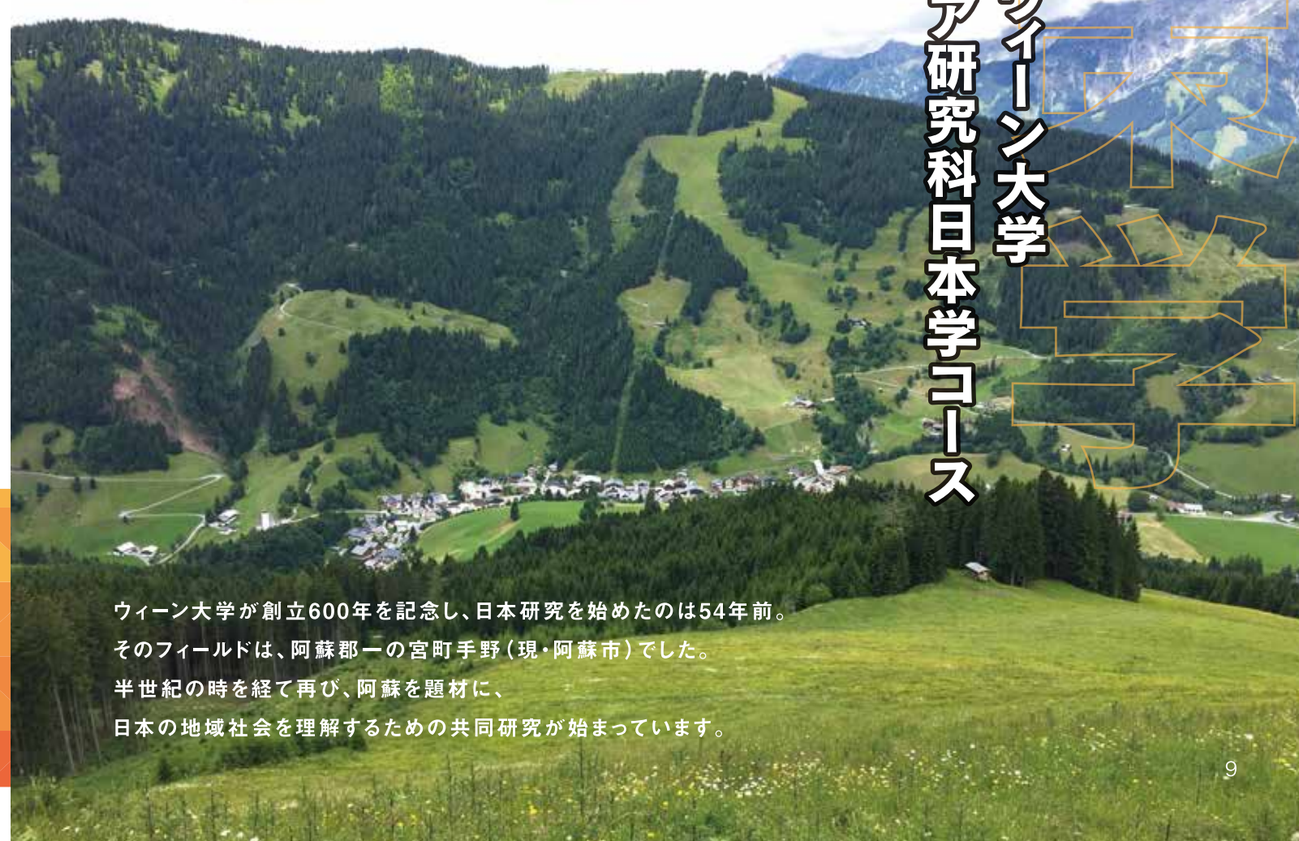
客員教授でもあるレイチェック教授は熊本大学で一緒に研究することも少なくない

大学院先端科学研究部（工学系）
先端工学第二分野（構造材料物性学）
連川（つれかわ） 貞弘（さだひろ） 教授

九州大学大学院総合理工学研究科材料工学専攻博士後期課程修了。2007年熊本大学工学部特任教授就任。2016年大学院先端科学研究部教授に。専門は、材料界面物理学・粒界工学。

熊本創生推進機構×オーストリア・ウィーン大学 東アジア研究科日本学コース

オーストリアの社会調査について発表準備をする熊大・ウィーン大学生（ウィーン大学で）



熊大・ウィーン大学生が共同で農村調査を行ったオーストリアのディエンテン

ウィーン大学が創立600年を記念し、日本研究を始めたのは54年前。
そのフィールドは、阿蘇郡一の宮町手野（現・阿蘇市）でした。
半世紀の時を経て再び、阿蘇を題材に、
日本の地域社会を理解するための共同研究が始まっています。

長い歴史を持つ阿蘇の地域研究と新始動した共同研究から見る「地域とは」、そして、「幸福とは」

興味深い研究フィールド 阿蘇市手野地区

1968年にウィーン大学が行った阿蘇の手野地区での調査・研究では、約1年もの間研究者たちが現地に住んで日本研究を行いました。それから50年という節目に再度、手野をフィールドに研究を行いたいという話がウィーン大学から持ち込まれた時、「欧州の日本研究の中で阿蘇研究が大きな位置を占めていることに驚きました」と話すのは、熊本創生推進機構の上野眞也教授です。

阿蘇市の手野地区は、外輪山上の草地から平地の水田まで、斜面のすべてを使った生業を持ち、国造神社の神事や祭りが大切に継承されている興味深い地区。「そんな伝統的な暮らしを守っているものの、過疎化、高齢化も進んでいます。50年で人々の暮らしは大きく変化して、現代的課題も多い。社会の変容をどう乗り越え、今後どう対応していくのか。今回はそんなテーマで研究したいと、熊本大学からは私たち公共政策学だけでなく、工学系や他の文系の先生方にも参加いただき共同研究を行うことになりました」。

教員も学生も活発に交流

共同研究開始以来、両国での国際学会やシンポジウムにお互いが参加。また、ウィーン大学から、教員のほか、毎年学生を阿蘇に派遣。2018年は20名もの学生が来熊し、調査や報告会、熊大生との交流ディスカッションなども行われました。さらに、リーディング大学院HIGO*プログラム学生がウィーン大学の学生と組んで、オーストリアの都市と山村でソーシャル・キャピタルに関する社会調査を行ったり、学部生や大学院生と御田祭に参加したりするなど、教育プログラムとしても活発な交流が行われています。

今回の共同研究で、ウィーン大学チームが興味を持っているのは、日本の現代的社会保障制度や地域組織、そして幸福とは何かについて。「経済的な面や職業的チャンスで言えば農村はハンディを背負っている。しかし農村の人々は、自分が何者であるのかを知っているし、食べていく力も技術もあり、人同士のつながりも強い。自分のことだけ考えていたら、地域の祭りなんて維持できません。山間地の農村の在り方から、幸福とは、生きがいとは何かと考える。そんな観点で研究しています」と上野教授は語ります。今後は、阿蘇が抱える課題に挑む大型プロジェクトも始動予定です。「たとえば、地下水を育む地域を守る人々と、水の受益者がともに阿蘇の自然を守る方法を、政策研究を通して考えたいですね」。手野地区だけにとどまらない、広く「川下」の地域までも視野に研究の可能性が広がります。

＊HIGOプログラム：「健康生命科学」の次世代リーダーを育成する大学院プログラム

ウィーン大学生と熊大学生がオーストリアのディエンテンで交流

手野地区の地域づくり活動で田植えをする熊大の学生たち

2018年はウィーン大学から20名の学生が阿蘇調査に訪れた。農村調査結果を、熊大の学生とともにワークショップで議論

熊本創生推進機構 地域連携部門
上野（うえの） 眞也（しんや） 教授

1979年に熊本県庁に入庁し、2001年、熊本大学生涯学習教育研究センター助教授に。2006年熊本大学政策創造研究センター教授に就任し、2008年から大学院社会文化科学研究科教授を兼務。2017年から現職。専門は、政治学、公共政策学。

研究室探訪

Laboratory Report

文学部
平野 順也 准教授
Junya Hirano

言葉の持つ絶大な影響力が見えた時、自己探求への道も深まる学問・レトリック

文化を生成する「言葉」その悪用に対する知恵を蓄える

平野順也准教授の専門分野は、コミュニケーション学。その中でも、修辞学と訳されるレトリックを研究しています。「文学を読み、作者の意図を探るのが文学であるとするならば、レトリックは、スピーチなどをテーマに、話者の動機や目的を探る学問です。たとえばアメリカ大統領のスピーチが、州によってどのようにメッセージが変わり、どのように人を説得するのか、というようなことを分析します」と平野准教授。

この研究の歴史をひもとくと、プロパガンダの分析が欧米を中心に盛んになった経緯があります。「もちろん、言葉は私たちを幸せにしてくれます。小説に感動し、知識を身につけ、親友と語りあうことができるのも、言葉のおかげです。しかし、第二次世界大戦では、言葉の悪用によって未曽有の惨劇が引き起こされました。私たちが日常で使っている言葉というものが、いかにおそろしいかを叩きつけられた出来事です」。学生時代、言葉の力が不幸を生むという事実が心に残り、言葉の影響力について考えるコミュニケーション学の意義に感銘を受けた平野准教授は、この道に進むことを決意。「レトリックという研究の目的は、話者の、言葉を悪用する策を止めること。成功と思われるスピーチや議論の粗い部分を抽出し、なぜ人々がそこに気づかなかったのかを分析します。言葉の悪用に対する知恵を蓄える、といったところでしょうか」。

言葉を受け取る側の分析も。多様な研究テーマに挑む

たとえば、今の政治家のスピーチを分析すると、「仮想であれ現実であれ、敵が明確に形成されている」と平野准教授。学生たちは、そんなスピーチそのものの分析はもちろん、スピーチを受け取る社会の土壌にも目を向け、なぜそこに勧善懲悪が必要なのかを研究テーマにする人も。そのほかにも、ディズニーの物語における悪と正義の描かれ方と、現在の政治家の類似性を探る研究、テロリストと交渉をしない姿勢をとる国の政策の背景や、その効果や問題を社会的メカニズムとともに分析する研究など、取り組むテーマは多様です。

この研究のおもしろさについては、「単純に、他人の批判ができます（笑）」とジョークを交えつつ、「とは言いながらも、たとえば、大統領のツイッターを、なぜ私たちは喜々として受け入れるのか。それを突き詰めると、私たちがなぜそれに興味を持つのか、何が好きで何を憎んでいるのかという、自分自身の人間性を理解するきっかけになります」。文学部は将来の可能性の幅が広いがために、目的が定まらない学生も多いと平野准教授。「今やりたいことがあるのか、あるならば、それは自分が本当にやりたいことなのか。将来の夢は何か。大切なものは何か。文学部では、それらは誰かに影響されて信じているだけなのか、一度かみしめて考えてみることができます」。

密着！平野研究室

ゼミでは毎年海外研修を行い、多文化や歴史を現地で学びます。

マカオの研修での１コマ

韓国でユニセフ国際会議に参加

lab's data

【大学院人文社会科学研究部（文学系）】

□修論・卒論テーマ
- 謝罪のメカニズム：「神」と禁忌の不在を中心に
- 再訪・英語帝国主義
- 正義の語り方
- 対立と対話について
- 芸術家の限界：ドビュシー『アッシャー家の崩壊』を中心に
- 加害と被害の平和教育
- 『ピーナッツ』に記された米国の闇
- 英雄の旅と錬金術：『ハリー・ポッター』分析

□メンバー
修士課程大学院生１人、
学部４年生７人、３年生５人

Interview

文学部コミュニケーション情報学科４年
河津（かわつ） 奈那（なな）さん（左）

3年次の課題研究では、研究計画書を学科のすべての先生方に見せます。その時、自分がやりたいことと平野研究室の研究内容が一致していると思って平野研究室を選びました。現在取り組んでいる卒論テーマは現代のナルシシズム。教育現場では個性を大事にしなさいとよく子どもたちにいいますが、そもそも個性とは何かがわからないまま成長するので、個性を履き違え、逆に個性がなくなっているのではないか、ということを研究しています。人生をより良く生きるためにどうすればいいかを学べるのが文学部。どんな生き方をすれば自分なりに歩いていけるかを見つけられる学部だと思います。

文学部コミュニケーション情報学科４年
蔵座（ぞうざ） 美菜子（みなこ）さん（右）

平野研究室に入ったのは、留学を考えていた時に、平野准教授に英語の指導をして頂いたことがきっかけです。その後オーストラリアに１年間留学しました。卒論は、世界で頻発するテロ行為に対する解決策を投げかけることがテーマ。テロ対策であるノンネゴシエーションが果たして正しいのか、疑問に感じたことで選びました。卒業後は英語を使う企業に就職が決まっています。卒論も英語で書いていて、これからも、もっと英語力を伸ばしていきたいと思っています。

特集Ⅱ

附属だからこそ、できる！ 附属学校の教育研究

熊本大学教育学部では、附属の小中学校・幼稚園と共に、子どもたちの可能性を大きく花開かせるための、さまざまな取り組みが行われています。
大学と連携した教育研究の成果は、全国の学校・幼稚園に向けて発表され、よりよい教育カリキュラムや指導方法の確立につながっています。

※熊本大学教育学部附属特別支援学校については、熊大通信60号でご紹介しています。 熊大通信 60号

明治10（1877）年創立
附属小学校

「伝えたい」思いを育む外国語教育

音声によるやりとりを主体とした外国語の授業の様子

小学校では2020年度に、3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科という教科が導入されます。すでに先行して、導入後と同じ時間数の外国語教育を行っているのが附属小学校。担当の髙田実里教諭に話を伺いました。「小学校の英語は音声が中心です。たとえば欲しいものを聞いたり話したり。外国語教育とはいえ、コミュニケーションの素地を身につけるため、その土台を育てる学習内容になっています。高学年では、語彙力に加えて、試行錯誤しながら会話をしようとする力をつけてほしいと思います。教育学部の先生にアドバイスを受け、私たちは授業を改善、大学の先生は実践の成果を研究に活用されています。留学生と交流しやすいのも、熊本大学附属の利点です」。髙田教諭は熊本大学と共同で、附属小学校での外国語活動を撮影し、編集して研修動画も制作。熊本市教育センター等で活用されています。

教育学部附属小学校 外国語活動専科
髙田（たかた） 実里（みさと） 教諭

昭和22（1947）年創立
附属中学校

主体的、対話的な深い学びを熊本大学とともに

附属中学校で行われている熊本大学との取り組みの一つが、教育学部の藤瀬泰司准教授と大学院生、そして、附属中学校の先生方がコラボした指導内容による授業です。健康寿命をテーマとした授業について、附属中学校社会科の坂田秀一教諭に伺いました。「保健体育で健康寿命を学んだ生徒たちは、健康寿命には生活習慣が大きく影響すると考えます。しかし、社会科は、健康寿命はその人が属する社会が大きくかかわると教えます。生徒たちは自分の知識とのギャップに驚き、なぜ？と考え、どうすればいいのか、という課題意識を持ちます。自分の意見を確立し、違う意見と折り合いを付けるための対話が生まれ、そこから新たに追求したい課題が見つかる。今の教育現場に求められる、主体的で対話的な深い学びにつながる授業です」。熊大生の教育実習についても、研究成果を学会等で発表。熊本大学とともに、教育学部を持つ全国の大学に発信する取り組みもしています。

大学院教育学研究科大学院生による、新しい指導方法の授業も行われる

教育学部附属中学校 社会科
坂田（さかた） 秀一（しゅういち） 教諭

大正5（1916）年創立
附属幼稚園

保育の質を高め、子どもの学びを深める大学との連携

元園長（熊本大学名誉教授）で体操選手でもあった錦井利臣氏によるトランポリン教室

坂下玲子教育学部教授による親子ダンスの指導

附属幼稚園では、運動会の親子ダンスなどで、教育学部の教員による指導が長年行われてきました。2017年度からは、子どもの学びを深めるための評価の在り方を探る研究を、熊本大学と連携して行っています。松岡美幸副園長は「幼児期に大切なのは、子どもたちが遊びの中からどんな学びを得ているか理解した上で、学びを深める支援や指導をすることです。幼児理解と指導の工夫改善を目的とした今回の研究では、研究推進員として教育学部の先生３名に来ていただいています。私たちだけでは気づかない成果の指摘や、専門的な立場での多面的な助言などもあり、大学附属ならではの成果がでていると感じています」と語ります。子どもたちの実態を見ながら作る評価指標は、職員が今後の指導について協議するときの道標にもなります。

「遊び込む子は自ら学ぶ子になります。保育の質を高めることで、これをいかに深められるか、大学の知見を活かしながら考え、全国や地域に還元できればと思います」。

教育学部附属幼稚園
松岡（まつおか） 美幸（みゆき） 副園長

知ってる？ 熊大のこんなサークル

私たちが取材しました！
熊本大学新聞社

（右から）文学部文学科３年　武藤 茉莉（むとう まり）　文学部文学科１年　藏原 優芽（くらはら ゆめ）
文学部歴史学科１年　東島 光佑（ひがしじまこうすけ）　文学部文学科１年　斉藤 恵里（さいとう えり）

高校まではなかったような珍しいサークルもありますよ。

熊本大学には2018年11月現在、42の体育会公認サークルと30の文化部会公認サークルのほか、各学部公認サークルがあります。

今回は、中でも特徴的なサークルを、熊本大学新聞社が取材しました！

熊本大学映画研究部 Cinelab.

「観て」「撮って」映画を楽しむ

部員数：約 70 人（そのうちの撮影班＜Qbrick＞4 人）
活動日：月・木　18:20 ～

熊本大学映画研究部は50年以上の長い歴史を持っています。主な活動は映画鑑賞と撮影班による映像の撮影です。映画鑑賞では、部長が中心となって選んだ、いくつかの映画を観た後、グループで感想を言い合い、おすすめの映画をプレゼンします。メンバーの一部で組織する撮影班＜Qbrick＞では、みんなで撮りたい映像を決め、綿密な予定を立てて、学内、学外を問わず撮影します。映画好きの人はもちろん、映画に今まで興味がなかった人や、得意なことがなくてどのサークルに入るか迷っている人でも始められる部活です。大学生活を豊かにする新たな趣味として「映画」を選んでみてはいかがでしょうか。

部長：工学部機械システム工学科２年　陶山（すやま） 聡（さとし）さん（左）
撮影班班長：理学部理学科２年　崎村（さきむら） 豪太郎（ごうたろう）さん（右）

熊本大学 舞踏研究部

熊大で Shall we dance?

部員数：24 名（男子 13 名、女子 11 名）　活動日：月・水・金

舞踏研究部は、社交ダンスを競技化した「競技ダンス」をしています。社交ダンスは基本的な技術を身に付ければ、老若男女誰とでも踊れて、年齢を重ねても楽しめるダンスです。

中でも、男女でペアを組んで踊る競技ダンスには、個人の身体能力にあまり左右されないという特徴があります。運動をしてみたいけど自信がない、という方には特におすすめです。また、大会では他大学の方とも踊ることができるので、九州全体に交友関係が広がりますよ。

ほとんどの部員が大学からダンスを始めていて、高校時代は文化部員だったという人も沢山います。皆さんも是非、熊大でダンスをしてみませんか？

部長：法学部法学科３年　中村（なかむら） 拓郎（たくろう）さん

熊本大学体育会 アメリカンフットボール部

チーム全員で勝利を掴み取る！ アメフトの魅力

部員数：約 20 人（マネージャー４名）
活動日：火・水・木 17:00 ～ 20:00 その後自主練　土・日午前中

私は、各ポジションの専門性や戦術面の面白さ、スポーツとして完成されているアメリカンフットボール（以下：アメフト）という競技に惹かれて入部を決意しました。アメフトは九州のどこの高校にも無いので、大学から始める選手が多いです。各部員が高校の部活動で培ってきた能力・体力・筋力を活かせるポジションに就き、チームのために一丸となって勝利に貢献していく点が大きな魅力だと思います。

個々の不断の努力がチームに結果をもたらし、2018 年の春は負け無し、秋は順位決定戦に進出することができました！

主将：教育学部　特別支援教育教員養成課程　田口（たぐち） 幹（もとき）さん

熊本大学 邦楽部

繊細なのにダイナミック？ 和楽器の音色にハマろう！

部員数：31 名　活動日：火・木 18:00 ～

邦楽部は今年で設立 48 年目。箏と三絃（三味線）、尺八の三種類の和楽器で合奏しています。古い曲をイメージされるかもしれませんが、現代作家による疾走感のある曲を演奏することがほとんどです。楽器は３種類ですが、最大８つのパートに分かれた音の重なりはとても綺麗で、驚くほど迫力があります。

毎回の活動では、年４回の演奏会に向けて自分のペースで練習を重ねています。４月に入部した１年生も、５月の皐月（さつき）演奏会に出られるようになりますよ。

伝統文化に興味があった私は、和楽器が気になって見学し、三味線に魅力を感じて入部しました。ぜひ熊大で、邦楽部をのぞいてみてくださいね。

部長：文学部歴史学科３年　仁科（にしな） 千佳（ちか）さん

その他、熊本大学の公認サークルについてはこちら！

熊本大学　サークル

＊部員数等は 2018 年 11 月現在です。

卒業生ジャーナル
GRADUATES' JOURNAL

世代を超えて熊大特集

長い歴史を持つ熊本大学。
今回調査したところ、
親と子・祖父と孫が同じ学部で学んでいる、
という方も少なくないことが判明しました！
そこで、「世代を超えて熊大特集」と題し、
昔と今の熊大の魅力を紹介いただきました！

文学部　壮大な世界の歴史を読み解き 未来を創る生徒たちに教えられた幸せ

母
笹谷　留里子
Ruriko SASATANI

佐賀県立佐賀東高等学校
教頭

文学部史学科東洋史学専攻
平成元年度卒

昭和43年生まれ。佐賀県江北町出身。佐賀県立武雄高校卒業後、熊本大学へ。平成22年4月～平成30年3月佐賀県のスーパーティチャー。15年間の佐賀西高教諭を経て平成30年4月佐賀東高教頭へ。平成27年度文科省優秀教職員表彰受賞。

生まれてきた意味を考え 大きく成長できた大学時代

さまざまな人と出会い、時に挫折したり、悩んだりしながらも「生まれてきた意味」を考え、大きく成長できた大学時代でした。学んだものは多く、歴史に対する視点や史料の分析など今存在する自分自身の原点にもなった4年間でした。

現在は教頭として、生徒や先生たちをサポート

卒業後は高校の世界史の教師になりました。壮大な歴史の世界に魅了され、これをさまざまな視点で読み解き、未来を創る生徒たちに教えることができたことは本当に幸せでした。人を育てる職業を選びましたが、たくさんの教え子に恵まれ、人に育てられたと感じています。現在は教頭職として、生徒や現場の先生方を少しでもサポートできたらと思っています。

熊大のココがイイ！

ゆっくりとした時間が流れて、落ち着いた雰囲気があります。また、いろいろな考えの人がいて、それを許容している懐の深さが魅力です。

学生から一言！
笹谷 紗希
文学部文学科　欧米言語文学コース
フランス文学専攻

総合大学のため、文系だけでなく理系の友人とも交流できるところが熊本大学の魅力です。所属するバスケットボールサークルにはあらゆる学部の学生が所属しているので、他学部の友人とも交流でき、サークルのお陰でより大学生活が楽しく感じられます。

医学部　造血器腫瘍の診察とともに 腫瘍化メカニズムの研究も

父
奥野　豊
Yutaka OKUNO

熊本大学大学院
生命科学研究部 血液内科
准教授

医学部医学科
昭和61年度卒
大学院医学研究科
平成5年度修了

昭和38年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立熊本高校卒業。

忙しそうな今の学生と比べ ゆったりとした6年間

真面目に授業を受け、ほとんど再試を受けることもなく卒業。5、6年生の時は少し忙しかったですが、全般にゆったりとした6年間でした。春はよくダンスパーティーに行っていました。

臨床も研究も、両方に力を注ぎ続ける毎日

若い頃は、内科医として何でも診る総合医のような感じでした。大学院では遺伝研で分子生物学を学び、当時の第二内科に戻ってからは5年ほど膠原病の診療を行いました。その後にアメリカ・ボストンのハーバード大学に留学し血液細胞での転写制御を研究。帰国後は血液内科医として悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などを診察するとともに、それらの腫瘍化メカニズムの研究も行っています。

熊大のココがイイ！

全般的に大らかでのんびりしていること。医学部には多浪生が多く、さまざまな人に平等に門戸を開いているところがいいと思います。

学生から一言！
奥野 佑樹
医学部医学科

熊本には研修できる病院が多いため、さまざまな病院で実習し学べることもありがたい環境です。大学ではテニスサークルに所属。毎年入ってくる熱心な初心者を指導するのも楽しいです。

理学部　生物多様性には重要な意味がある 社会のために行動できる人材育成に興味

父
高添　清
Kiyoshi TAKAZOE

平成21年
熊本県立翔陽高等学校を退職

理学部生物学科
昭和45年度卒
大学院理学研究科生物学専攻
昭和47年度修了

昭和23年生まれ。大分県別府市出身。大分県立大分上野丘高校から熊本大学へ。大学院修士課程修了後県立高校の教師として球磨郡に赴任。水俣芦北地域、熊本市内などで生物教師として勤務。現在、熊本県自然保護関係団体協議会会長などを務める。

1年生から実験実習で 大いに鍛われた

同級生はわずか14名。1年から球磨・阿蘇・天草などで植物採集・臨海実習などの実験実習で鍛えられました。学部2年の時に大学紛争があり、一年間講義がなく、自分の好きなことができました。夏目漱石の「教育は国家の基礎にして師弟の和熟は教育の大本なり」を実践している学科で、楽しく有意義でした。

生き物は文化財。守るための啓発にも努力したい

長年高校教育現場に勤めた経緯から、生物の多様性は非常に広範で重要な意味を持っていると考えています。そのために、己のためではなく、社会のために行動できる次世代を担う人材育成に関心があります。生物は、私たちの心身を育む大切な文化財であり、それを守る啓発活動に努力したいと思っています。

熊大のココがイイ！

旧制第五高等学校の歴史や伝統、森の都にふさわしい落ち着いた雰囲気がある。

学生から一言！
高添 清登
理学部理学科生物コース

専攻分野は主に植物の分類。立田山を中心に植物を採集し、顕微鏡などを用いてスケッチを行いながら、種を同定するのが楽しみです。自分の好きな植物を研究の題材にするのはとてもおもしろいです。

法学部　さまざまな利益を調整する法律の 役割の大きさを痛感し日々まい進

父　母
宮國　英達／貴子
Hidetatsu／Takako MIYAGUNI

英達さん
そよかぜ法律事務所（沖縄県）

法学部法律学科　平成4年度卒

昭和45年生まれ。沖縄県具志川市（現うるま市）出身。沖縄県立開邦高校卒業。司法研修所を経て平成10年に弁護士登録。趣味は野球。

貴子さん
そよかぜ法律事務所 事務員（沖縄県）

法学部法律学科　平成４年度卒

昭和45年生まれ。福岡県大牟田市出身。福岡県立三池高校卒業。

バイトと学業に明け暮れ 遠歩大会もいい思い出

英達さん／1、2年時はバイトに明け暮れ、2年後期から卒業までは大学院生の主宰する司法試験ゼミで弁護士や司法修習生から直接受験指導を受けていました。
貴子さん／学園祭恒例の阿蘇耐久遠歩大会に出て、完走したことはいい思い出です。

相談に対し、わかりやすく 説明することも弁護士の役割

英達さん／現在弁護士5名で法律事務所を経営。法律の意図するところからなぜ相談者に有利または不利となるのか理解しやすく説明できるように努めています。
貴子さん／卒業後、熊本共同法律事務所で事務員として勤務。記憶に残っているのは、水俣病訴訟です。患者さんに寄り添い水俣病に立ち向かう姿に、法曹の大事さを痛感しました。

熊大のココがイイ！

教授、先輩たちとの距離が近く感じられること。緑が多く、歴史的な建物も残っていて、人も良くて過ごしやすいこと。

学生から一言！
宮國 遥
法学部法学科

バドミントンサークルで朝も夜も練習をしたり、友だちと旅行したりと充実。優しい友人に囲まれて楽しい思い出がたくさんできました。

薬学部　ふるさとで薬局を開業し、 「町の科学者」として医療に貢献

父　母
小嶋 祐一郎／恵
Yuichiro／Megumi KOJIMA

祐一郎さん
有限会社田中薬局
駅前調剤薬局（大分県）

薬学部薬剤学科　昭和57年度卒
大学院薬学研究科
博士課程医療薬剤学専攻
昭和62年度修了

昭和35年生まれ。大分県佐伯市出身。大分県立佐伯鶴城高校卒業。

恵さん
株式会社下川薬局
東中の島調剤薬局（大分県）

薬学部薬剤学科　昭和58年度卒

昭和36年生まれ。福岡県みやま市出身。福岡県立三池高校卒業。

生涯の友と出会えた 大学時代は一生の宝

祐一郎さん／博士課程では研究漬けの毎日でしたが、学会や研究室旅行でいろいろな場所に出かけたりしたことが良い思い出です。
恵さん／1、2年時は書道部で、他学部や大学の方とも交流。専門課程でも勉強やバイトに充実した日々でした。生涯の友となる仲間に巡り逢えたのが一番の宝です。

会社勤務や病院勤務での経験が 患者さんとの交流にも役立つ

祐一郎さん／会社勤務の後、熊本大学医学部の助手を5年勤めました。その後地元で、小さな薬局を経営。得た知識を如何にして患者さんに伝えていくかに苦心しています。
恵さん／卒業後は地元に帰り、病院に勤務した後、結婚退職。10年間の子育て、育児休業を経て、現在は調剤薬局薬剤師としてパート勤務をしています。

熊大のココがイイ！

総合大学なのに家庭的であり、地方大学なのに国際的。自然環境の豊かな土地にあり、のびのびと勉学に打ち込めるところ。

学生から一言！
小嶋 遥
薬学部薬学科
（遺伝子機能応用学分野）

慢性腎臓病の原因であるAlport症候群、および先天性ネフローゼ症候群の治療薬についての研究に、やりがいを感じています。

工学部　新建材開発から、管理業務まで エンジニアの世界を歩き続ける

父
中村　守康
Moriyasu NAKAMURA

三菱ケミカルエンジニアリング㈱
技術本部建築部（東京都）

工学部建築学科
昭和58年度卒
大学院工学研究科
建築学専攻修士課程
昭和60年度修了

昭和36年生まれ。福岡県久留米市出身。福岡県立明善高校から熊本大学、大学院へ。

難しい課題も遊びも 仲間たちと切磋琢磨

学年が上がるに従い専門度が上がり、構造力学の課題は同級生数名で下宿先に集まりみんなでなんとかこなし、卒業設計は学校に２カ月程こもって作成した事が思い出されます。一方、友人及び先生たちとの飲み会や部活、バイトなど、自由でおおらかな環境で大学生活を過ごしたことに感謝しています。

恩師の勧めで現職へ

恩師の勧めもあり、三菱化成工業㈱（現三菱ケミカル㈱）へ入社、化学系プラントの建設保全業務、当時の新素材だった炭素繊維を使用した建材の開発研究および用途開発業務に従事。同じ建材のアルミと樹脂の複合板の事業運営管理業務を経て、平成30年4月より三菱ケミカルエンジニアリング㈱技術本部建築部にて建設エンジニアリング業務全般に関わっています。

熊大のココがイイ！

旧制第五高等学校の剛毅朴訥感もあり、雰囲気が自由かつおおらかなところ。

学生から一言！
中村 有博
大学院自然科学研究科
機械システム工学専攻

現在は、コンクリート建造物における非破壊検査について研究中。実証の装置も自分で製作することにやりがいを感じています。

教育学部　5000人を超える教え子を誇りに 中学数学教育一筋50年

祖父
宇藤　元文
Motonori UTO

熊日生涯学習プラザ 講師
（熊本県）

教育学部数学科
昭和42年度卒

昭和20年生まれ。宮城県名取市出身。熊本県立熊本高校卒業。阿蘇、上益城、熊本市で教職、熊大附属中、熊本県教育委員会勤務、熊本市立東町中学校長で退職。私立真和中・高校、私立尚絅中・高校で数学指導。

サークル「視聴覚教育研究会」で 小学生らとも交流した大学時代

学部長でゼミ担当の荒木雄喜先生、数学科の金丸忠義先生から学問、社会勉強ともにしっかり教えていただきました。サークルは、「視聴覚教育研究会」で、へき地の小学校に行ったり、市民会館で映写会をしたりしました。

東京大学や熊本大学の 教授になった教え子たちも

中学校数学教育一筋で、今も生涯学習講座で「もう一度中学数学」を教えています。今年で教壇生活50年。教え子は5000人を超えました。初めて3年間担任したクラスの生徒が今年60歳。同クラスから東京大学や熊本大学の教授として活躍している方々がおられることがうれしいです。

熊大のココがイイ！

家族的で温かく接してくださる先生方の御指導。立田山山麓の自然に囲まれているところ。

学生から一言！
宇藤 楓馬
教育学部小学校教員養成課程
技術科専攻

現在は、特別な支援を要する児童のための教材を製作中。特別支援という難しいテーマですが、同じゼミの友人たちのアドバイスや先生方のご指導をもとに研究を進めています。

REPORT 益城町川内田地区アートプロジェクトとして、教育学部の学生が壁画を制作しました

平成30年10月20日（土）、21日（日）、「益城町川内田地区アートプロジェクト～子どもが集う清流の里 川内田～」として、大学院教育学研究科の松永拓己准教授と研究室の学生25名が、直径２ｍの円形オブジェに絵を描きました。このプロジェクトは、地域事業者の依頼で実施されたもので、地域の子どもたちを元気づけ、地域活性化につなげることを目的としています。

当日は「ことわざ」をテーマに、１人１作品を制作。「旅は道連れ」「早起きは三文の得」などのことわざを、学生が１つずつ選択。それぞれのことわざがもつ教訓を、わかりやすく子どもたちに伝えるため、メッセージをイメージさせる絵を描きました。今後、作品は川内田地区に展示され、地域の子どもたちの憩いの場として活用される予定です。

REPORT 第１回DDP(Double Degree program)記念シンポジウムを開催しました

平成30年10月25日（木）、26日（金）に医学教育部主催の第１回DDP(Double Degree program)記念シンポジウムが奥窪記念ホールにて開催されました（企画：富澤一仁医学教育委員長）。医学教育部とタイ王国マヒドン大学医学部シリラ病院とコンケン大学医学部との間でダブルディグリープログラムが開始されたことを記念したシンポジウムで、がん、感染症、生活習慣病の3つのテーマでタイから10名、熊本大学から10名のスピーカーが発表し、原田信志学長及び安東由喜雄医学教育部長同席のもと、熱心なディスカッションが交わされました。

医学教育部は、英語による講義とe-learningシステムを立ち上げ、大学院教育の国際化を進めてきましたが、DDPの導入で、更なる国際化が期待されます。DDPでは既に3名の大学院生が入学し、来年からチェンマイ大学医学部（タイ）も参加します。来年のシンポジウムはマヒドン大学で開催されます。

REPORT 大学院教育学研究科の緒方信行教授が、金栗四三氏の銅像を制作しました

平成30年11月11日（日）、九州新幹線の新玉名駅で金栗四三氏銅像の除幕式が開催されました。この銅像は、「マラソンの父」金栗四三氏の功績を讃えるため、母校である熊本県立玉名高等学校の同窓会が創立115 周年の記念事業として建立したものです。当日は、玉名高校OB で、銅像制作を行った大学院教育学研究科の緒方信行教授と、制作に関わった学生が参加しました。銅像は、日本人として初めての五輪参加となったストックホルム大会の姿を再現。制作意図説明で緒方教授は「フォルムや顔の表情など、納得いかず作り直したりもしたが、最も力を感じる頃の、決意にあふれる姿を表現した」と語りました。

INFO シンポジウム「熊本地震による赤れんが建造物の被害と復旧」を開催します

熊本大学の赤れんが建築群は、国の重要文化財に指定されています。博物館・資料館として一般公開してきましたが、平成28年熊本地震により被害を受けて休館し、復旧・補強工事を行っています。

この赤れんが建築群の熊本地震による被害状況と復旧への取り組みについて、シンポジウムを開催します。

【開催日時・場所】
平成31年3月2日（土）
13:00～16:30
熊本大学工学部百周年記念館
【参加対象者】
どなたでも
【申込方法】
事前申込は不要
【参加費】無料
【問い合わせ先】
熊本大学五高記念館
TEL: 096-342-2050
FAX: 096-342-2051
E-Mail: goko@kumamoto-u.ac.jp
【URL】
http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp

INFO 熊本大学HIGOプログラムインターンシップ・研究活動報告会を開催します

社会で即戦力となる医学・薬学の博士を育成する大学院プログラム。学生たちが最先端の研究とインターンシップ、社会連携活動の成果を発表します！

【内容】
プログラム生によるインターンシップ報告（インド、水俣、佐渡・上天草、新日本科学、同仁化学研究所、熊本日日新聞社、文部科学省ほか）、研究活動報告、学外活動報告、修了者による発表、長崎大学北潔氏による特別講演「大学院で何を学ぶのか」など
【開催日時・場所】
平成31年1月17日（木）
13:30～17:00
熊本大学医学部山崎記念館
【参加対象者】
どなたでも
【申込方法】
事前申込は不要
【参加費】無料
【問い合わせ先】
生命科学系事務課
リーディングプログラム推進チーム
TEL: 096-373-5006
E-Mail: higo-program@jimu.kumamoto-u.ac.jp

REPORT 社文研・法学部海外短期調査および研究交流プログラムを開催しました

平成30年9月1日（土）から9月13日（木）にかけて、大学院社会文化科学研究科と法学部、そして他学部から11名の学生が上記プログラムに参加しました。参加者は、シンガポール、マレーシア、ブルネイの３カ国の諸大学法学部において、プレゼンや学生交流を行いました。また、法律事務所において、アセアン諸国におけるリーガルサービスの展開についてレクチャーを受けました。本プログラムを通して、「多様性のなかの統一」を目指している東南アジア諸国の政治、行政、法律、経済、歴史および社会について学ぶだけでなく、東南アジア独特のミックスカルチャーの魅力を肌で感じ取ることもでき、大変有意義であったとの感想が参加者から寄せられました。これからも社文研院生や法学部生にとって多くの国際交流の経験を積むことができるスタディ・アブロードプログラムに取り組んでいきます。

マレーシアのマラヤ大学法学部の学生と一緒に

シンガポール大学法学部図書館にて

ブルネイのイスラム・サルタン・シャリフ・アリ大学法学部の先生および学生と一緒に

クアラルンプール・シティギャラリーの前にて

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№４４（平成３０年８月１日～平成３０年１０月３１日）

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約１３億９２０３万円（平成３０年１０月３１日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生へ対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成３０年８月１日から平成３０年１０月３１日までの間に入金を確認させていただきました個人１５２名、１８法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室（電話：096-342-2029）までご連絡ください。

皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

１. お名前・寄付金額の掲載

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※（　）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

＜熊本大学基金＞

【100 万円】　芳賀　義雄（705）　西田　治義（300）

【10 万円】　奥野　豊（15）　清原　由紀夫（42）

【５万円以下】　立原　悟（2）　富田　正郎（7.5）　原村　嘉彦（5）　本多　邦雄（13）　村上　公輝（1）　村瀬　弘幸（1）　本島　昭男（20）
山下　太郎（6）　山城　重雄（5）　熊本大学関西武夫原会（28.5）　宮崎県庁武夫原会（2.8）

＜熊本地震復興事業基金＞

【５万円以下】　富田　正郎（7.5）

２. お名前のみ掲載

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※［　］内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

＜熊本大学基金＞

赤塚　貴史［3］　秋山　仁志［5］　安東　由喜雄［7］　井上　泰輝［3］　猪股　裕紀洋［3］　植田　光晴［4］　小川　善弘［2］　甲斐　豊
京　一夫　鹿子木　裕二　上城　洋一［2］　河村　邦比児　菊川　史郎　黒石川　正孝　佐藤　武文　塩見　祐一［6］
杉村　知子［2］　瀬尾　昭　瀬口　聖史　高松　孝太郎［2］　田尻　恵美子　坪井　健児［3］　寺本　純　中島　誠［10］
中原　圭一［2］　西岡　加名恵　波多野　恭行［14］　福島　孝子　福村　佳代子［4］　藤川　貴久　古江　研也［3］　古庄　伸行［3］
古田　清吾　堀畑　正臣［2］　増田　曜章［2］　美坂　紀治　溝口　格　森　孝志［2］　山縣　和也［2］　山口　節夫
山本　ソノエ

アズビル株式会社
医療法人サムアップいちぐちクリニック
医療法人社団成郁会
医療法人社団杉野会杉野クリニック［2］
医療法人聖粒会慈恵病院［3］
株式会社熊本日日新聞社［2］
株式会社産業保健コンサルティングアルク
株式会社杉養蜂園［2］
肥後木村組株式会社
健康長寿代謝制御研究センター神経感覚運動器研究部門

＜熊本地震復興事業基金＞

児玉　伸子［4］　宮本　保［14］

３. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人８９名、６法人・団体等

REPORT 平成30年度熊本大学卒業生表彰式を行いました

平成 30 年11月4日（日）のホームカミングデー当日、平成 30 年度熊本大学卒業生表彰式を行いました。

この卒業生表彰は、平成24年度からスタートした表彰制度で、熊本大学の発展または社会からの理解促進につながる顕著な功績があった卒業生を、各学部等同窓会からの推薦に基づき表彰するものです。

第７回となる今回受賞となったのは、武夫原会（文・法学部同窓会）４名、教育学部同窓会 3 名、理学部同窓会２名、熊杏会（医学部同窓会）1名、薬学部同窓会３名、工業会（工学部同窓会）４名、医学部保健学科同窓会 3 名の計 20 名で、それぞれの分野で顕著な功績を挙げられた皆様や、同窓会活動にご尽力いただいた皆様です。表彰式においては、原田学長から祝辞が述べられました。

REPORT 平成30年度 熊本大学学生支援室FD・SD講演会「障害のある学生への合理的配慮～制度改正により教職員に求められること～」を開催しました

平成30年10月31日（水）にくすの木会館レセプションルームにおいて上記講演会を開催しました。

熊本大学（障がい）学生支援室の井上寛子特任助教による学内における障がい学生への支援状況についての報告に引き続き、信州大学高橋知音教授より、高等教育における合理的配慮についての基本的な考え方や、その提供を行う上で教職員に求められることについて講演がありました。

当日は、学内外から教職員77名もの参加があり、多くの方から質問をいただきました。

講演会終了後にも希望者による少人数での意見交換会が行われ、大変活発な質疑応答が行われました。高橋先生からはどの質問に対しても丁寧な回答をいただき、大変有意義な講演会となりました。

なお、講演会場では、熊本大学サポートサークルの学生による聴覚障がい者への情報保障である要約筆記（文字通訳）が実施されました。

INFO 【展覧会】明治150年 国立近代建築資料館開館5周年企画「明治期における官立高等教育施設の群像」を開催中です

各地に残る明治期の高等教育施設に関する建築資料の展覧会（主催：文化庁）にて、熊本大学から貸し出した旧制第五高等学校と熊本高等工業学校の資料が多数展示されています。

貸出資料：建築落成報告・手書き手彩色の当初図面（重文）
敷地模型・棟札・懸魚（げぎょ 建物の破風を飾るもの）

【開催日時・場所】
会期：平成 30 年 10 月 23 日（火）～平成 31 年 2 月 11 日（月）
休館：12 月 29 日（土）～1 月 3 日（木）
開館時間：10：00～16：30
会場：文化庁 国立近現代建築資料館
東京都文京区湯島 4-6-15 湯島合同庁舎内
事前申込は不要
開催期間中５回の
ギャラリートークが
予定されているが、
こちらも申込は不要

【入場料】
展覧会のみは無料
（都立旧岩崎邸庭園と
同時観覧の場合 400 円）

【問い合わせ先】
文化庁 国立近現代建築資料館
TEL:03-3812-3401
FAX:03-3812-3407
【URL】
http://nama.bunka.go.jp/

懸魚

REPORT 東京オフィスセミナー・関西オフィスセミナーを開催しました

首都圏と関西圏の一般の方を対象に、熊本大学への理解を深めていただくため、平成30年9月22日（土）に「東京オフィスセミナー」を、平成30年9月15日（土）に「関西オフィスセミナー」を開催しました。当日は多数の参加者を迎え、東京では「糖尿病と戦う－熊本大学の医学最前線－」、関西では「女性の味方～シクロデキストリンとサクランの魅力」のテーマで講演が行われ、参加者からの質問に講師が答えるなど、盛会のうちに幕を閉じました。

熊本大学は、情報発信、企業との連携等をもって、教育研究の進展及び産学官連携の推進を図るため、県外拠点として、東京と大阪にそれぞれオフィスを設置しています。また、本セミナーについては、今後もテーマや趣向を変えながら実施していく予定です。

東京オフィスセミナー会場の様子

関西オフィスセミナー会場の様子

知の至宝

扁額『順道制勝 行不害人』（五高記念館所蔵）

この扁額は嘉納治五郎（かのうじごろう）が五高第三代校長であった頃（在任は1891年8月から1893年1月）に揮毫（きごう）したと伝えられる。「甲南」は嘉納が若い頃から60歳まで使用した号である。講道館柔道を創始し、日本最初の国際オリンピック委員として活躍した嘉納は、東京高等師範学校校長を3期24年にわたって務めるなど、教育者としても広く知られている。

「道に順（したが）いて勝を制すれば、行（ゆ）いて人を害（そこな）わず」とは、「正しいやり方で勝ちを収めれば、人を害うことはない」という意味である。正しいやり方とは単に技術的な面での正しさだけではなく、相手を敬い、感謝の気持ちを以て対する心の正しさをいう。柔道の目的は、まさに人の道を極める人間形成にあり、相対する者同士が共に高め合うこととし、柔道を教える場にも「講道」という名を冠したのである。このような理念のもとで女子や外国籍の入門者にも分け隔てなく指導を行った。嘉納の高い理想は教育の場にも踏襲され女子教育や中国からの留学生の指導にも力を注ぐことになるのである。

文　藤本秀子（五高記念館）

熊本大学
Kumamoto University
〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
TEL.096-344-2111（代）
http://www.kumamoto-u.ac.jp/
■黒髪キャンパス　■本荘キャンパス　■大江キャンパス